

< 新たな地域づくりビジョン(仮) >

ゆるやかなつながりを大切に、地域をもっと好きになる！

地域づくりの必要性

これまでの市の取組や市民向けアンケート結果等から分析・考察

(地域が抱える現状)

- もう少しゆるやかなつながりがほしい
負担感・義務感があると続けづらい。仲間もなかなか増えない
- 本当はもっと地域でやりたいことがある
なかなか行動に移せない。後押し・サポートが無い、知らない
- 地域のことを知らない、機会が無いから愛着もわかない

(行政が抱える現状)

- 人口減少による税収の減少
- 複雑化・多様化する課題に対応する行政需要の高まり
地域が抱える個別のニーズに、継続的かつきめ細やかに対応することが、今後だんだんと困難になる可能性。

現状を改善

- 現状の改善 = 必要性を訴える声
- 「新しい時代の新しいコミュニティの形」が求められている
 - 多様性やさまざまな価値観の包摂
 - 持続可能な地域コミュニティの維持形成
 - 既存の制度・しくみの変革

「八王子未来デザイン2040」策定の背景
未来を拓く原動力 = 地域自治・共創

前提

八王子市の特徴(強み・弱み)

- 豊かな地域性
 - 合併の歴史、旧町村ごとにあるコミュニティ
 - 自然豊かな山間部から計画的に開発されたニュータウン、活気のある中心市街地など
- 高い市民力・地域力
 - 市民により培われてきた市民活動の歴史
 - 地域と行政によりこれまで取り組んできた協働の歴史
- 時代の変化とともに見直しの必要が生じているしくみ・制度
 - 後継者・担い手が不足している地域活動団体など
 - 老朽化への対応やニーズに応じた今後のあり方を検討しなければならない公共施設など

その先にある姿

市の施策(行政として用意するしくみ)

< 支える >

- 地域づくり団体制度(補助金を含む)
- 地域づくり担当による地域への伴走型支援
- 中間支援機能を担う団体等への支援

< つなぐ >

- 地域内外の活動をつなぐネットワーク
- 庁内分野横断的な地域づくり推進体制(庁内連絡会の開催など)
- 地域づくりと職員の関わり

< 掘り起こす >

- 事業の周知・PR
- 地域づくり担当による既存の事業・取組の掘り起こし
- 地域の担い手の育成(人材バンクの活用等)

市政全般における「地域づくり」の位置付け
(各所管における地域との取組と地域づくりの関係性)

2040年に目指す地域コミュニティの姿

ゆるやかなつながりを大切に、地域をもっと好きになる！

< 新たな地域づくりビジョン > の実現で達成する3つの姿

誰でも気軽に参加でき、参加する人が「楽しい」「満足」と感じられる取組を継続的に行うことで、地域がゆるやかにつながる
 地域内外の資源を活用し、みんながその地域に着目するような「魅力的」な取組を行っていく
 地域づくりで育まれたつながりを通じて、これまでどおり継続することが難しくなっている取組や地域の困りごとの共有が図られ、少しでも改善・解消の糸口を見つけていく

「地域自治」という言葉

「地域のことを自分たちで考え、ともに行動することでみんなの幸せを実現していくこと」(八王子未来デザイン2040)

地域自治組織(地域自治区)の設置を目指すものではない

新たな地域づくりビジョンを実現して、自分たちが暮らすまちをより良く・住みやすくすることを最終的なゴールとして設定

市の施策のベースとなる「地域づくり推進会議」のしくみ・制度

地域づくり推進会議

- 参加団体間の連携・調整・補完・情報共有
- 行政との連携・調整・相談・検討

地域づくり団体

- 地域の将来ビジョンの実現に向けた取組の実行

モデル試行検証状況を踏まえていく

他自治体の先進的事例の研究・検証

- 宮崎市
- 多摩市
- 日野市
- 名張市
- 鈴鹿市 など

○今後の議論の順序

<新たな地域づくりビジョン(仮)>

ゆるやかなつながりを大切に、地域をもっと好きになる！

①地域づくりの必要性

これまでの市の取組や市民向けアンケート結果等から分析・考察

(地域が抱える現状)

- もう少しゆるやかなつながりがほしい
→負担感・義務感があると続けづらい。仲間もなかなか増えない
- 本当はもっと地域でやりたいことがある
→なかなか行動に移せない。後押し・サポートが無い、知らない
- 地域のことを知らない、機会が無いから愛着もわかない

(行政が抱える現状)

- 人口減少による税収の減少
- 複雑化・多様化する課題に対応する行政需要の高まり
→地域が抱える個別のニーズに、継続的かつきめ細やかに対応することが、今後だんだんと困難になる可能性。

現状を改善

- 現状の改善=必要性を訴える声
- 「新しい時代の新しいコミュニティの形」が求められている
 - 多様性やさまざまな価値観の包摂
 - 持続可能な地域コミュニティの維持形成
 - 既存の制度・しくみの変革

で議論したしくみ・制度を活用して「どのような課題にチャレンジできるか」という視点から、**地域づくりの必要性について議論を行う。**

前提

- 豊かな
- ニュータウン、活気のある中心市街地など
- 高い市民力・地域力
 - 市民により培われてきた市民活動の歴史
 - 地域と行政によりこれまで取り組んできた協働の歴史
- 時代の変化とともに見直しの必要が生じているしくみ・制度
 - 後継者・担い手が不足している地域活動団体など
 - 老朽化への対応やニーズに応じた今後のあり方を検討しなければならない公共施設など

②市の施策(行政として用意するしくみ)

<支える>

- 地域づくり団体制度(補助金を含む)
- 地域づくり担当による地域への伴走型支援
- 中間支援機能を担う団体等への支援

<つなぐ>

- 地域内外の活動をつなぐネットワーク
- 庁内分野横断的な地域づくり推進体制(庁内連絡会の開催など)
- 地域づくりと職員の関わり

<掘り起

地域づくり推進会議を中心に、行政の施策として用意する地域づくりのしくみ・制度について、事務局案をもとに議論を行う。

市の施策のベースとなる「地域づくり推進会議」のしくみ・制度

地域づくり推進会議

- 参加団体間の連携・調整・補完・情報共有
- 行政との連携・調整・相談・検討

団体のビジョンの実現に

市政全般における「地域づくり」の位置付け(各所管における地域との取組と地域づくりの関係性)

モデル試行検証状況を踏まえていく

③2040年に目指す地域コミュニティの姿

ゆるやかなつながりを大切に、地域をもっと好きになる！

<新たな地域づくりビジョン>の実現で達成する3つの姿

- 誰でも気軽に参加でき、参加する人が「楽しい」「満足」と感じられる取組を継続的に行うことで、地域がゆるやかにつながる
- 地域内外の資源を活用し、みんながその地域に着目するような「魅力的」な取組を行っていく
- 地域づくりで育まれたつながりを通じて、これまで通り継続することが難しくなる取組や地域の困りごとの共有が図られ、少しでも改善・解消の糸口を見つけていく

「地域自

ビジョンを実現した先にある地域コミュニティの姿について議論を行う。
ただし、「地域自治」という言葉がいわゆる都市内分権をめざすものではないことを明確にする。

みんなの先進的

検証

など